



楽しむ子育てと杜の子サロン

特定非営利活動法人せんだい杜の子ども劇場
理事 岩住 昭子

私が「子育ては楽しい」と気付いたのは、5 番目の子を授かった頃、大阪で二人の子どもを育てていた先輩ママのその一言だった。それまでのわたしは、教育ママ。私自身、小学生に英語を教え、3 人の子どもたちは、学習塾・サッカー・スイミング・エレクトーンとそれぞれが2つずつ習い事をしていて、24 年前夫の転勤で仙台に来た直後、大阪の産婦人科医院で紹介された3人子育て中で泉子ども劇場会員の母親に会った。初対面で意気投合し、直ぐに小学生と幼児と乳児と私の4人で加入した。そこから私の「楽しむ子育て」は始まった。「楽しむ子育て」にシフトすると、不思議と出会う若い母親たちは、遊び場を教えてくれた。太白山の自然観察の森、宮城県美術館、みちのく湖畔公園など、皆親子で遊んだ。

辛いこともあった。大学卒業後 20 年振りに、実業家、大学教授に其々なった女性に再会した。二人の会話について行けなかった私は、20 年間子育てにだけ生きていた自分が惨めでならなかった。その惨めな思いは、寒い冬の日、太白山の自然観察の森で消えた。それは、レンジャーさん自身8年の勤務中一度も見たことのない「ルリタテハチョウ」の成虫の冬越しを見た時だった。きっと木のウロにひっそりいると思いきや、林の中の北風の通り道の木に樹液もなくただ樹皮にしがみつき冬越しする「ルリタテハチョウ」を見て感動した。虫好きでもない私が、専門家でもなかなか目にするのでできない姿をこの目で見ると、これは、社会で羽ばたく友人には決して味わえないこと、子どもと歩む自分にしか出来ない体験だとわかった。惨めさが、喜びに変わった。

もう一つ、四男・五男・長女がお世話になった幼稚園の園長だった菅千代先生との出会いを抜きには、私の仙台の 24 年間の子育ては語れない。菅千代先生の退官後の 16 年間、子育てママの学習会「オリーブの会」に私は毎月出向き、千代先生に慰められ癒された。千代先生は「どんなに曲がったり、逆向きに進んでいるように思える歩みでも、それはその人に備わった道。何一つ無駄はありませんよ」といつも私たちを励ましてくださった。

泉子ども劇場は、仙台市内の他の 2 子ども劇場と統合後、2006 年特定非営利活動法人せんだい杜の子ども劇場として新たにスタートした。2011 年東日本大震災以来、それまでの杜の子サロンを、ママたちがほっとできる空間、自分らしさを取り戻せる時間、友だちと出会う場所、「ママたちのおしゃべりタイム・杜の子サロン」とし、毎月1回、泉区中央市民センター和室で開いている。手遊び・わらべうた・絵本と、ひとしきり親子で遊んだ後、子どもたちは、スタッフの見守るなか、和室いっぱい広げたおもちゃで遊ぶ。ママたちは好きな飲み物を選び、ソーサー付きのカップでカフェとおしゃべりを楽しむ。

私は、子育て中のママたちのそばへ出向き、励ましのエールを送りたい。たとえ悲しいこと、辛いことがあっても、必ず喜びが待っていると、伝え続けたい。

